

# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市文殊小学校 校長 善塔 啓介

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

文殊教育懇話会（家庭・地域・学校協議会）

委員9名

地域（3）

文殊公民館館長、自治会連合会会長  
福井市文殊こども園長

家庭（3）

PTA役員

学校（3）

校長、教頭、教務主任

※地域コーディネーター（1名）

文殊公民館館長

### (2) 協議会の開催日時

および内容

※開催回数 3回

※開催日程と協議内容

・第1回（6月27日）

本年度の活動について

・第2回（10月29日）

前半の活動の評価と改善について

・第3回（2月16日）

年度末評価と次年度の計画について

足羽第一中学校区 2月18日



### (3) 協議会における重点事項

児童の通常活動はもちろんのこと、地域やPTAの協力を得たマラソン大会や食育セミナーなども参観していただく機会をもつようにした。そのことにより、地域と家庭の両輪で子どもたちだけでなく学校全体の教育活動を支えていただく意識向上につなげていく。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域の人材等の教育資源を積極的に活用しながら、児童の主体的活動を推進する。HP、学校だより、PTA広報紙、学校公開等を通して、家庭や地域へ情報を発信するとともに、家庭・地域・他校・こども園との双方向のやりとりを密にすることによって、スムーズな連携を図る。特に、公民館との連携をこれまで以上に強化し、諸団体からの協力を得ながら、地域の輪と絆を活用した教育活動を推進する。

### (2) 活動の実際

#### ① 雅楽体験（太田清音会）（6学年）

PTAと共に行う最大の学校行事「文殊の火祭り」の儀式では、地域の「太田清音会」の方が越天楽を演奏する。音楽科で学習することもあり、雅楽楽器の歴史を知り、実際に触ったり吹いたりすることにした。これまでも、「文殊の火祭り」で聴いていることもあり、曲そのものはよく知っていたが、楽器を手にしたり間近で演奏を見たりすることはなかったので、大変興味深く学習することができた。装束も着させていただき、よい経験となった。



子どもたちは、なかなか演奏をする若い担い手がいないために、福井市内にもたくさんあった雅楽演奏の団体がなくなってきていることやこの地域でずっと続いてほしいという思い、もっと身近に感じて大切にしてほしい、誇りに思ってもらいたいという願いを聞くことができ、自分の地区の未来を見つめるよい機会となった。太田清音会は、地域の宝としてテレビ番組でも紹介されている。子どもたちが、改めて地域の宝としての魅力に気づき、継承していくことの大切さと難しさ、課題を感じる事ができた。

② 地域の方と一緒に学習「すがたをかえる大豆」から(3学年)

3年生の国語科の学習に説明文「すがたをかえる大豆」という単元がある。年度当初に、10月にそれを学習すること、社会科の工場見学や総合的な学習と関連付けることでカリキュラム・マネジメントを行い、年間を通じて学習することを計画した。近所の方にお願ひし、大豆を育てて収穫し、干して大豆を作った。同時に、社会科ではスーパーマーケットの探検で、大豆から作られた製品にはどんなものがあるかを調べたり工場見学では大豆からどのように味噌が造られているかを教えてもらったりしながら、大豆への関心と興味を深くもつことができた。



自分たちで収穫した大豆をどうにかして「食べてみたい」「すがたをかえた大豆にしてみたい」と、ボランティアの祖父母に習い、味噌づくりを行った。大豆をゆでて、つぶして米麴を合わせる作業で、匂いや手の感触を感じながら楽しんで味噌づくりを行った。また、食べることのできない大豆をつかい、「豆つかみゲーム」を休み時間に全校児童対象に行い、手作りの賞状を渡し楽しんでもらうように工夫するなど主体的な活動も見られた。

③ 詩と俳句の学習 ~吉池道子さんと~ (4学年)

地域に在住の吉池道子さんに、詩や俳句の指導をしていただく機会をもった。子どもたちが受け止めた新鮮な感動やちょっとした気づき、感謝の気持ちを、見たまま感じたまま表現することの大切さや楽しさを教えていただいた。今後、紙すき体験でつくった自分たちの和紙に、自作の詩や俳句を書いて、公民館等に掲示していただく予定である。



(3) 地域コーディネーターの活用概要

地域コーディネーターは、公民館長という広い人脈をもつ立場で各行事や教育活動において深く関わっていただいた。「地域の方に教えてもらいたい」「協力していただきたい」という旨のお願ひや講師の依頼をすると、必ずボランティアの方や団体を紹介していただき、幅広く地域とつながる学習をすることができた。

(4) 特に工夫した事項

各学年の学習をいかに「地域の方と一緒に」「地域の方に教えてもらって」「地域で」と展開することを教員一人一人が念頭に置くこと、新しく何か行事や活動を行うのではなく校外学習や体験活動を「地域」と結びつけることを工夫した。

(5) 成果と課題

子どもたちに身につけるべき資質・能力を明確にし、総合的な学習や特別活動、学校行事と地域の学習をどう結びつけていくのかをカリキュラム・マネジメントをしながらおこなうことができた。来年度は、今年度の活動を継続し、これまで行っているキャリア教育や歴史懇話会の方々との学習も、教育課程に明確に位置づけることで、教師も子どもたちも負担なく開かれた教育課程に近づくと考える。さらに6年生の活動では、地域の人の熱く深い思いに触れる点を大切に、子どもたち自身が地域を思い大切にしよう、自分が今できることは何だろうと考えるきっかけを作っていきたいと考える。